

内外海まちづくり協議会の皆さんに取り組みを聞きました。



写真左から 事務局長・野村徳夫さん(69歳・阿納尻) / 副会長・浜岸吉満さん(66歳・田烏) / 会長・川代雅和さん(59歳・西小川) / 副会長・野村和司さん(51歳・堅海) / 副会長・吉武みどりさん(58歳・甲ヶ崎) / 副会長・泉本桂子さん(43歳・阿納尻)

ふるさとの未来につなぐ 輝く地域づくり

■問い合わせ 市民協働課 ☎ 64・6009

市民協働 BOX vol.33

地域・住民が主体となつてまちづくりを進めるための組織「まちづくり協議会」。本年度からは、小浜・雲浜・内外海・宮川・松永・遠敷・今富・口名田・中名田・加斗の10地区のまちづくり協議会が、地域の資源を生かした、課題解決につながる事案に取り組んでいます。

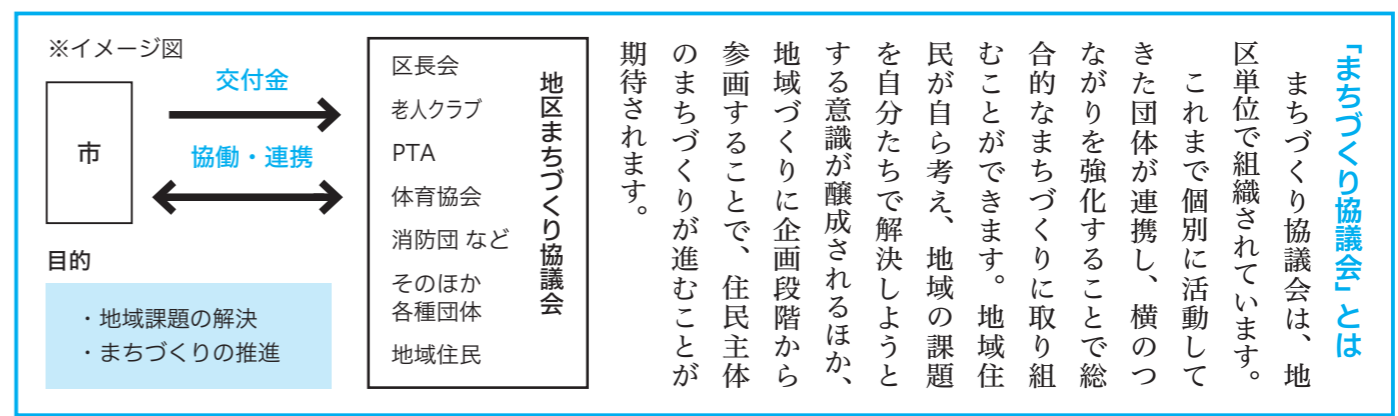
今回、廃校となつた小学校を活用するなど、地域の活性化に向けて活動している「内外海まちづくり協議会」取材しました。

内外海まちづくり協議会

内外海地区では、平成27年度に内外海まちづくり協議会を設立し、「ふるさとづくりは、ひとづくりから」をスローガンに掲げ、市民活動団体なども協力しながら、さまざまな事業に取り組んでいます。

その一つとして、平成3年に閉校した旧阿納尻小学校を「象の駅」として活用。当駅をまちづくりの中核として位置づけ、地域創生の拠点として内外海の魅力を発信しています。

地域・住民が主体となつてまちづくりを進めるための組織「まちづくり協議会」は、地区単位で組織されています。これまで個別に活動してきた団体が連携し、横のつながりを強化することで総合的なまちづくりに取り組むことができます。地域住民が自ら考え、地域の課題を自分たちで解決しようとする意識が醸成されるほか、地域づくりに企画段階から参画することで、住民主体のまちづくりが進むことが期待されます。



設立からの活動を振り返って

川代 まだ活動に対して深く興味や関心を持ってくれる人が少ないのが現状です。もつと地区の人に協議会のことを知ってもらいたいですね。一方で、内外海小学校の児童たちが地元に関心を持ち、地域について調べたり、他校での地元のPR活動を計画してくれたりと、とても頼もしく思います。

浜岸 自分たちだけで楽しむのではなく、楽しむ姿を周りに見てもらうことが大事。また、外から人が入ってきてくれるように、今後は経済効果を生む仕掛けづくりをしていく必要があると考えています。

吉武 イベントをしても参加してくれる人の顔ぶれが変わりません。新しい人を呼び込んで、いかに広げていくかですね。

野村和 私は、自分より下の世代とのつなぎ役を意識してやっています。今後も自分の適した役どころで、まちづくりの一端を担っていきたいです。

泉本 最近、力を抜いて行事に参加することで、自分自身も楽しめるようになってきました。

行事を開催することで、地域の人同士をつなげることができると思っています。先日開催した「クリーンアップ・ウォーキング」では、小さな子ども連れの家族など、多くの人が参加してくれたんですよ。



クリーンアップ・ウォーキング (10月14日)

野村徳 役員をはじめ、まちづくりも前に進んでいる感じががあり、大変心強く思っています。今後は、各部会との連携を強化し、横展開をしていくことで成事例をつくっていききたいです。

内外海地区の課題は

浜岸 内外海には、オールシーズン通して売りになるようなモノが少ないのが現状です。そのため、もつと海を生かした体験などのバリエーションを広げていきたいですね。また、Uターンで帰って来る人は田舎の魅力を知っているのですが、そういう人に入ってもらい、発想や思いを取り入れていきたいですね。

川代 最近、高齢者に免許証の自主返納が促進されています。移動手段があいあいバスだけになると、自分の都合で出かけることができなくなることから、地区の起点から各区に送迎をするなど、住民の足を確保する必要があると考えています。

浜岸 象の駅を交通拠点やサロンとしての交流の場、体験施設などに活用していきたいですね。

泉本 内外海には、県外からの修学旅行でも来てくれるので、都会の子どもたちに、象の駅など地域の魅力を知ってほしいです。

今後、目指す方向は

川代 活動の輪を広げる「人づくり」が一番大切です。そのため、協議会では年齢層別に話し合いの機会を設けており、低年齢層では、地元小学生が協議会の総会で「まちづくり」について発表してくれました。また、婦人会や区長会とも対話集会をするこゝとで「人づくり」を始めています。

子どもたちが思い描くまちづくりをしていくことで、地元に残る、または帰ってきてくれる若者を増やしていく。これも一つの「人づくり」だと思います。

協議会の活動が、ふるさと内外海の未来につながっていけばうれしいですね。



内外海小学校6年生が協議会の総会で「まちづくり」について発表 (4月15日)

口名田

有意義な活動を通して、住みやすい地域に



口名田ふるさとづくり協議会
事務局長 堀田 稔 さん
(66歳・須縄)

口名田地区では、5つの部会に分けて活動を行っており、地域の自然を生かした「投網漁体験」や市の男女共同参画事業を活用した「土笛づくり」など、新たな活動も実施しています。

協議会を立ち上げたことで、既存の事業について、改めて見直すことができました。今後も地域住民の意見を取り入れながら、有意義な活動に取り組み、より住みやすい地域にしていきたいですね。



投網漁体験 (8月20日)



防災研修会 (9月3日)

多くの人に関心を持ってもらい、地域全体で盛り上げたい

雲浜



雲浜地区コミュニティ協議会
代表 岡本 英司 さん
(74歳・雲浜一丁目)

今年、協議会で新たな事業として「防災研修会」を実施しました。雲浜地区には、海や川が近くにあるため、住民の防災意識が高く、多くの方に参加していただきました。この他にも、多くの地区民や協議会の団体が、地区の特性を生かした事業に取り組んでいます。

今後は、より多くの人に関心を持ってもらえる活動に努め、各団体が協力して、地域全体でまちづくりを盛り上げていきたいです。

笑顔あふれる

地域をめざして

平成29年度からまちづくり協議会を設立した4地区の代表に取り組みを聞きました。

加斗

地域資源を研ぎ、まちづくりにつなげたい



加斗まちづくり協議会
会長 森本 信二 さん
(62歳・下加斗)

加斗には、豊かな自然環境や鯉川シーサイドパークなどの地域資源があります。今後、それらに研ぎをかけて、シーズンを通して活用できるようにしていきたいです。

加斗夢づくり協議会では、次世代のリーダーの育成が課題になっています。そのため、「人づくり」を含め、次の世代に引き継げるような、長い期間を見通した「組織づくり」に取り組んでいます。



鯉川シーサイドパークビーチソフトバレー大会(8月26日)

環境資源を生かして、住民に愛されるまちづくりを

松永



松永まちづくり協議会
会長 本田 真希雄 さん
(64歳・太興寺)

松永まちづくり協議会では、田植えや稲刈り体験を通して、これからの地域を支えていく子どもたちに、農業に親しんでもらえるよう取り組みを進めています。

今後は、農業を含めた環境資源を生かして、地域の発展を目指すとともに、小学校跡地の活用や組織の世代交代などの課題を解決しながら、地域住民が松永に住んでいて良かったと思えるまちづくりに努めていきたいです。



松永小学校 稲刈り体験 (9月19日)



市民協働課
課長 和久田 和典

市では、まちづくり協議会の支援を継続するとともに、地域づくりをさらに活発に行っていたため、活動拠点である公民館のコミュニティセンターへの移行を検討していきたく考えています。

各地区が、地域力を結集した協働のまちづくりを進めることで、その地域だけでなく小浜市全体の活力につながることを期待できます。まちづくり協議会の運営への参加、活動への参加のバイをどんどん増やしていただき、全体の底上げを図りながら、活発に活動していただきたいと思っています。

各種団体や多くの地域住民で組織する「まちづくり協議会」。各地区では、地域資源を生かした事業や地域の課題解決に向けた取り組みが行われています。平成30年度からは、西津地区と国富地区でも「まちづくり協議会」が設立される予定で、市内全地区が地域協働のまちづくりに取り組んでいただきます。

地域力を結集した協働のまちづくりを

【まちづくり協議会 設立の状況】

